



人間に魅了される魅力に  
説得力のある時間

小島 聖  
—女優—

完璧に再現された1950年代NYに、  
2人の女優に、ひたすら見惚れてしまう。  
一分の隙もなく美しい映画。

山内マリコ  
—作家—

魅惑とは、まさにこのこと。

鈴木 杏  
—女優—

二人の目の演技に  
ノックアウトされました!

ELLE  
コンテンツ部編集長  
坂井佳奈子

彼女たちは愛した、  
自分を偽らずに生きるため。  
そのあまりに美しい軌跡。

門間雄介  
—編集者、ライター—

美しい!  
美しすぎる2人の女優魂に  
胸を衝かれる

君島十和子  
—美容家—

女を虜にする女の魔性は  
あまりに高貴。  
危険な分だけ尊い愛に酔わされた

齋藤 薫  
—美容ジャーナリスト/エッセイスト—

監視的な時代に  
濃密なおんなの時間を刻むキャロルに  
息を呑む。

青山 南  
—翻訳家—

主演女優2人の美しい芝居がすごい。  
「視線」がすべてを物語る—

映画.com 編集部



ここまで細かく構築するのが映画だ。完璧!  
やっぱりケイト・ブランシェットは私の目標。

滝藤賢一  
—俳優—

からみあう視線に、  
心がからみとられる!

余 貴美子  
—女優—

“自分”としての生き方を  
否定も肯定もない。  
女として母として、その責任を考え生きる姿は  
切なくも素晴らしい。

木村文乃  
—女優—

多くの人は一生、キャロルに出会えない。  
でも、テレーズは出会ってしまった。  
この映画にはそんな残酷さと奇跡が映り込んでいる。

ぴあ映画生活  
中谷祐介

彼女たちの心の襞が、  
美しき映像をたどってゆく。

石丸幹二  
—俳優—

天から落ちてきたようなひとめ惚れ。  
男も女もあるものか!

銀粉蝶  
—女優—

ミステリアスでロマンチック。  
でもウェットになり過ぎずスタイリッシュ!  
結末をあなたはどう読みりますか?  
わたしは…

LiLiCo  
—映画コンターター—

人は一人では生きていけない。  
たとえそれがどんな形でとしても…  
無償の愛を追い求めて彷徨える女性必見!!

紫吹 淳  
—女優—

傑作である。  
夫もいれば恋人もいる二人の女性が、  
1950年代ニューヨークの歳末のデパートで出会う!  
売り娘ルーニー・マーラと  
顧客のケイト・ブランシェットの艶やかな視線の交わしあい!!  
その宿命的な遭遇の行く末を、  
誰もが陶然と息をつめて見守るしかない!!!

蓮實重彦  
—映画評論家—

この恋の行く先を

見届けてください。

ここまで細かく構築するのが映画だ。完璧!  
やっぱりケイト・ブランシェットは私の目標。

滝藤賢一  
—俳優—

香り立つような優美さを持ちながら、  
愛する心を芯でとらえた名作!

石川三千花  
—イラストレーター—

恋に落ちる瞬間と、  
恋に生きる勇気。  
必然は美しいと思う。

FIGARO japon  
編集長 西村 緑

切り裂かれたあとも  
優雅な感触を保ちつづけるシルクのような映画。  
風に舞う二枚の布が、  
不安と悦楽のダンスを踊っている。

芝山幹郎  
—評論家—

人生に疲れたというか、  
うんざりした自分の人生を見事に表現する  
ケイト・ブランシェットの演技が、  
最高に素晴らしい。

前田美波里  
—女優—

宝塚の男役ばりに  
所作やエスコートが完璧なキャロル。

最初、(子持ち主婦? うーん……)と感じていたのが、  
(え?いいかも)→(いけそう)→(おねがいします!)と  
女心が掴まれました。

辛酸なめ子  
—漫画家・コラムニスト—

最高に美しく、切ないほどにメランコリック。  
キャロルに会うと、私も恋に落ちるだろう。

Numéro TOKYO  
編集長 田中杏子

目の保養って素敵な言葉♡  
面倒なことはサテおきましょう。

いいんじゃないの全て綺麗なんだから!!  
脈につけた香水の放たれた空間に  
大満足の私がいた。

萬田久子  
—女優—

『キャロル』を観ると『太陽がいっぱい』の  
原作者パトリシア・ハイスマスが  
本当に言いたくて言えなかったことがわかる。  
淀川長治さんに観てほしかった。

町山智浩  
—映画評論家—

愛ってなに?なんて  
問はず忘れる美しさ。

小島慶子  
—タレント・エッセイスト—

※敬称略・順不同